

著書，報告書の刊行の報告ほか

Publication and Conference Reports

村田 あが

1) 著書の刊行

『新版家政学事典』（共著）出版報告

日本家政学会編，朝倉書店，平成16年7月発行

共著者：刊行委員 福田はぎの，牧野カツコ，沖田富美子，中島明子ほか

住居分野執筆者：村田あが，内田青蔵ほか

家政学の事典である。第VII編住居第1章住居史1. 1「日本的住様式の成立」を担当執筆した。

2) 報告書の刊行

『武蔵野市第四期基本構想・長期計画計画案』（共著）刊行報告

武蔵野市第四期基本構想・長期計画策定委員会編著，武蔵野市，平成16年9月発行

共著者：東原廣道，小木佳苗，鶴川正樹，廣瀬久和，増山幹高，村田あが，古田土一雄，江並讓

武蔵野市の平成17～26年度の市政運営の方向性を示し，実施すべき施策・事業について計画する標記委員会に，環境・都市基盤分野の担当委員として参画した。委員会による審議，市議会全員協議会，市民ヒアリングなどを経て計画案をまとめ，市長に答申した。

3) 公開講座

本学公開講座「江戸の風景，平成の風景—建物の彼方に江戸を想う」実施報告

跡見学園女子大学短期大学部・文京区教育委員会主催，平成16年度公開講座

「江戸/東京学—東京の歴史と文化を散策する」

標記の公開講座において，変わりゆく都心の風景の中に江戸や明治の痕跡を探し，昨今の都心再開発建築群の状況と重ね合わせて江戸と東京の諸相について講演した。

4) 新聞掲載

「PI外環沿線協議会—議論のとりまとめに新たな局面へ」

建通新聞平成16年7月16日掲載

外環道東京区間についての協議を続けてきたPI外環沿線協議会のこれまでの経緯と今後の

展望について、標記の建設業界紙の取材を受けた。協議会の位置づけ、討論内容の枠組みを設定する必要性などについて指摘したものが記事として掲載された。

「ぜみなーる江戸東京学」執筆

読売新聞東京都内版の標記連載に寄稿した。

平成15年10月「今も昔も最先端の風景」(汐留)

平成15年12月「変わらぬ趣、今も」(六本木ヒルズ)

平成16年2月「雲居に紛う？東京ドーム」(小石川後樂園)

平成16年4月「開放的な“平成の長屋”」(江東・東雲)

平成16年6月「変わる風景変わらぬ緑陰」(神田川)

平成16年8月「老舗の街に巨大な「暖簾」」(日本橋)